医療サービスⅠ

総合討議

会場：　田中先生におうかがいしたいのですが、重心動揺計プラス振動子を用いたトレーニングの仕方について、どういうストラテジーの下、どういう状況でこういう刺激を出すという、具体的なやり方に関してご説明していただけませんでしょうか。

田中：　重心動揺計は、世界的に認められている平衡機能を計る機械ですけれども、その中の圧の中心の位置といわれているもの、つまり圧中心軌跡を使います。始めに患者さんもしくは高齢者の方の基礎データを取ります。これによって、だいたいの前後左右の閾値（面積）が決まるわけですが、その閾値を超えるか超えないかを理学療法士やスタッフが判断して、超えたときに超えた方向から振動を刺激をして、戻すというものを作りました。

会場：　それは立位のときだけの刺激ですよね。

田中：　はい。

会場：　それを訓練することによって、歩行とかそれ以外のときの成果が上がるとお考えですか。それとも、もう少し進めたものが必要だとお考えですか。

田中：　先生のおっしゃるとおり、これはあくまでもスタティックなスタビリティを扱っているものですから、ダイナミックなものへと展開するためには、もう一つ工夫が必要になってきます。

　先ほど最後に出しましたように、歩行の遊脚時期など、それぞれのフェーズに合わせた振動刺激を、例えば遊脚期の膝関節角度を制御するために振動刺激を与えるとか、そういう位置センサーを別枠で付けて行うという形を、今後とっていくことになっています。かなりプロトタイプも出来てきまして、今後の展開を徐々に進めていこうと考えています。

座長：　どうもありがとうございました。

　このヘルスリサーチは、多領域の方により学際的に研究を進め、発展させることが目的であります。今回このセッションは看護学・理学療法学の方のご発表をいただきましたが、今後ますますいろいろな領域の方のご発表・ご研究を期待したいと思います。